

平成 26 年度行政評価（外部評価）議事要旨

議 事 概 要	
会議の名称	平成 26 年度行政評価（外部評価） ※イルミネーション事業（「ながくて冬まつり」の実施）
開催日時	平成 26 年 12 月 8 日（月）午前 11 時から正午まで
開催場所	市役所西庁舎 3 階学習室 1・2
出席者氏名	委員 中島 美幸 委員 杉山 知子 委員 下崎 一洋 委員 江頭 隆行 委員 山口 秋男 担当課 暮らし文化部長 布川 一重 暮らし文化部次長 高嶋 隆明 たつせがある課長 吉田 弘美 たつせがある課長補佐 福岡 弘恵 事務局 行政経営部長 松井 豊明 行政経営部次長 三浦 肇 経営管理課長 高木 昭信 経営管理課長補佐 門前 健 経営管理課主事 清水 裕穂
傍聴者人数	4 人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	イルミネーション事業（「ながくて冬まつり」の実施）
問 合 先	長久手市行政経営部経営管理課 0561-56-0600
備 考	

担当課	<p><平成 26 年度長久手市行政評価（外部評価）資料に沿って説明></p> <p>今後の予定で市の事務局主導から民間主導の実行委員会へ運営主体を見直すところがあるが、今年度の状況はどのようなか。</p> <p>実行委員会形式で始まって今年で 3 年目になる。今年は企画の段階から観光交流推進会議会員主導で始まっている。ながくて冬まつりの事務局機能の一部であるお金の管理、企画は実行委員会に行っていたり役割分担をしている。</p> <p>3 年前から行っているのか。</p> <p>実行委員会形式で行うのは今回で 3 年目である。</p>
委員	
担当課	
委員	
担当課	

委員

今後の予定である市の事務局主導から民間主導の実行委員会へ運営主体を見直すというのは、現在進行形で段階的に進めている状態ということか。

担当課

年々実行委員会に事務を移行している。

委員

平成25年度決算額と平成26年度予算額が100万円ほど違うが、この説明をお願いしたい。

担当課

冬まつりのイルミネーション事業は長久手市の観光事業の大部分を占める事業である。地域のお祭りや消えつつある伝統的な資源をもう一度見直して観光資源とするため、今年は夏祭りを企画したが、残念ながら台風の影響で中止となってしまった。市内には様々な地域資源があるので、そういったものを観光資源として活用するよう考えている。

たつせがある課の観光部門で持っている予算は全体でいくらと決まっており、今年度は観光交流基本計画の改定もあるため、全体の予算の配分の中でイルミネーション事業を縮小せざるを得なかった。

また、昨年度まで観光交流推進会議は市長が会長、くらし文化部長が事務局長の市主導の会議体であった。これも市民主導に移行し、来年度以降には観光協会への移行も含めて検討していきたい。毎年補助金だけで行っていくわけにはいかないため、スポンサーを集めて自主的に事業を行うようにという意味も込めて、予算の縮小を行った。

委員

長久手市は歴史が面白い土地であると思う。全国的に高齢者は増えており、いろいろな場所でウォーキングイベントなどが行われている。そういった面でも、観光事業はとても重要なものであると思う。長久手市の観光事業におけるビジョンを教えてください。また、この事業もそのビジョンの一部になるのか。

担当課

市内には観光地として、モリコロパークやトヨタ博物館などがあるが、市の観光としてそれだけではなく、観光交流に力を入れていきたいと考えている。市内には観光資源である農、文化、伝統芸能がまだまだ眠っている。新たな観光資源を発掘し、市の観光を盛り上げようと考えている。まち歩きや体験ツアーなども企画していけたらよいと思う。

観光事業の予算は約1,680万円となっている。そのうちイルミ

委員
担当課
委員
担当課

ネーション事業に係る予算が650万円となっている。

観光事業の予算に占めるイルミネーション事業の割合は。

38%ほどとなっている。

イルミネーション事業は縮小していくのか。

今後のイルミネーション事業については、毎年事業の効果等を評価し検討していきたい。

委員

成果の指標が観光交流人口となっており、観光交流人口は市内の観光施設の来場者の数であると思う。これは、イルミネーション事業の来場者ではないが、その数を成果指標としている理由を説明して欲しい。イルミネーション事業の来場者数を成果指標とした方が、この事業がうまくいっているのかどうかはわかるのではないかな。

担当課

反省点であると思う。イルミネーションの通過者や市内観光施設で連動イベントを行っており、来場者数の把握が難しく、全体の観光交流人口とした。ご指摘の点については、今後改善していく。

委員

イルミネーション事業を行うことは必要だと思うが、長久手市の観光という一番に思い浮かぶのは「小牧・長久手の戦い」であると思う。冬まつりも歴史をテーマにして行った方が、盛り上がるのではないかなと思う。リニモの乗車率を上げるという意味もあるのであれば、イルミネーションで勝負するより、歴史ラリーなどを行った方が効果が出るのではと思う。夕方4時から8時のイベントより、日曜日の昼間に子どもと一緒に参加できるイベントであった方が観光という点ではよいのではないかな。

委員

長久手市と言えば歴史が一番に浮かぶが、イルミネーションと歴史がつながらない。リニモ利用促進を目的にイルミネーション事業は始まったが、観光事業ではないと思う。観光事業は長久手独自の歴史などを行った方が良いと思う。例えば、長久手版歴史検定や歴史学習を作って、歴史好きの方を取り込むとよいと思う。イルミネーション事業で集客するのではなく、他の事業に力をいれても良いと思う。

委員

成果指標が観光交流人口で350万人という大きな数字となっているが、事業ごとの指標を検討し、コストパフォーマンスを検証していただきたい。

委員

イルミネーション事業がどのように観光推進につながっているかが

担当課

見えてこない。元々はリニモの利用促進で始まった事業で、そこからのように観光に繋げているかの背景の部分について説明いただきたい。また、成果目標が350万人となっているが、その目標を設定した思いを教えてください。

長久手市の観光は2005年の愛知万博が契機で、長久手市観光交流推進会議を立ち上げ、モリコロパークやあぐりん村が整備された。人口の定着や、収入の確保の面から主要施策の一つとして位置付けた。イルミネーション事業は、リニモとトヨタ博物館がコラボしてリニモクリスマストレインを走らせ好評だったことから、行政も連携をしようと思った。リニモの乗車数を検証し、一定の効果が出たことから、観光交流推進会議に事務が移行した。現在もリニモ利用促進という目的は変わらず残っており、リニモクリスマストレインは今でも即乗車券が完売するほどの人気である。何年か前から行政が主導するやり方から、市民の方に移行している過渡期にきている。まだまだ市内には歴史的な文化財があるので、市民が中心となった観光協会を新たに立ち上げようとしている。リニモの長久手古戦場駅と公園西駅で区画整理事業が進んでおり、商業施設が来ることにより人の流れが大きく変わると思う。特に長久手古戦場駅については、隣に長久手古戦場公園がある。市街化区域の真ん中に歴史的な施設があることは珍しいので、これを活かさない手はないと思う。こういった市内に多くある資源を生かしていきたい。本市を訪れるきっかけは観光であったが、長久手がよいまちで住みたいと思っていただき、定住を促進していきたい。こういったことを観光交流基本計画の改定の中で、示していきたい。

委員

観光交流基本計画の改定や、長久手古戦場駅の商業施設などにより市の観光やイルミネーション事業も大きく変わっていかねばならないと思う。より市民の方たちが有意義であると思っていただける事業展開をどのようにしていくかを計画の中で示していくことになると思う。歴史とイルミネーションとでは、興味のある市民の興味や関心が別々であると思うが、どちらのニーズも組み入れていけると良いと思う。イルミネーション事業に関しても市民レベルで運営できる規模をどう定着させていくかが難しいと思う。市民の意欲を出すことも課題の一つだと思う。

	<p>長久手市は他の市町と違って、人口が増えてから減っていくため、増えている人口のニーズには応えていかなければならない。こういったことも長久手市の課題であると思う。</p>
委員	<p>長久手古戦場駅の商業施設が出店した場合、リニモ乗客は増える予想であるのか。</p>
担当課	<p>リニモ杵ヶ池公園駅にアピタがあるが、リニモの利用者は数パーセントである。リニモ利用者にとどのようなインセンティブを与えるとリニモに乗っていただけるかをリニモと観光資源との連携からも検討していかなければならない。</p>
委員	<p>リニモの利用者が数パーセントしか増えないのでは、別の対策を考えていく必要があると思う。</p>
委員	<p>イルミネーション事業を実行委員会形式に移行していくとあるが、実行委員会のメンバー構成を教えてください。</p>
担当課	<p>現在実行委員会は30名で構成されている。そのほとんどが観光交流推進会議の会員である市内の事業者が中心となっている。それに加えて有志の市民と学生を加えて構成されている。我々としては、実行委員会のメンバーを増やして行って、主体的に活動していただきたいと考えている。</p>
委員	<p>クリスマスの時期の夜間のイルミネーション事業は、続けた方が良くと思う。ボランティアの方々を含め頑張ってください。</p>
担当課	<p>ボランティアの手を広げていきたい。</p> <p>昨年と今年の23日に当たるイベントの違いを紹介したい。昨年は夜間のイベントで、音楽ライブ中心で3会場を10団体が巡回してイベントを行っていた。長久手市は人口構成が若く、家族連れで来場する方が多く、実行委員会委員の提案で、今年は日中のイベントに変更することになった。内容の中心は昨年同様音楽イベントであるが、演奏会場を提供してくださる図書館通り沿線店舗及び長久手の食のブースについても、初めて協力参加してくださる店舗や出店者が出ることになっている。イベントを実施することにより、参加者同士も新しいコラボにより、交流が生まれている。</p>
委員	<p>もともとリニモ利用促進で始まったイルミネーション事業を無理やり観光につなげたことに違和感があるという委員のご指摘があった。</p>

イルミネーション事業は市民交流の場として発展している過渡期であると思う。観光そのものを発展させることも重要だが、市民の交流の場、市民が主体的に動けるまちとイベントということで今後は発展していくと感じた。どの事業に関しても言えることだが、万博や市制施行など長久手は変動が大きいので、その中での試行錯誤であるかと思う。大きな展望を持っていることも分かったので、現時点では矛盾点がたくさんあるが、それも発展していく中のプロセスであると思った。着実に展望に向かって進めていただきたいと思います。